

平成28年度 学校評価実施報告書

幼稚園名(京都市立開智幼稚園)

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力・豊かな心・健やかな体	保育の改善・充実	園庭、歴博グラウンドも活用し、体を十分動かし遊び、心の安定と運動機能の発達を促す。一人一鉢栽培、「かいち大自然」プランの充実。絵本ノートの活用と絵本室の環境整備。保護者啓発を進め100冊達成率を高め、言語の獲得、感性、知的好奇心を高める。	安全点検表、絵本ノート、環境整備実績、栽培計画と実施、学級ごとの遊びや園行事の計画と実施、週案への記載、懇談会、保護者の声、月だより、アンケート
	幼小接続の視点	洛央小学校と年間交流計画を作成し、複数学年との交流を互恵的に実施すると共に幼稚園での生き方探究教育の素地について探る。おたより等で情報交換する。	交流の年間計画立案、実施と振り返り、教職員も含めた相互訪問等の実績、アンケート
	心と体・生活習慣	早寝・早起き・朝ごはん、手洗いうがいの習慣化、気候に合った服装、熱中症対策、感染症予防等を家庭と連携して取り組む。丁寧な健康観察、月例保健指導を行う。	出席簿、保健簿、月だより、各種検査結果、環境整備実績、週案の記載、懇談会、保護者との会話、アンケート
園独自の項目	信頼関係・折り合い・自己肯定感	発達段階に応じた集団を意識した保育、縦割りのメンバー構成による保育等、少数数園ならではの年齢を越えた人のかかわりを促す。教職員全員が保育に参画するようにする。	週案の記載、関わりの生まれる学級ごとの遊びや園行事の計画と実践事例、懇談会、保護者の声、月だより、アンケート
	感謝と未来へつながる保育	年度末の閉園を見据えた、子どもの育ちや感謝の心、次年度への希望が膨らむ保育の年間を通した計画と実践を保護者と共に進める。	週案の記載、閉園を見据えた学級ごとの遊びや園全体の行事の計画と実践事例、懇談会、保護者の声、月だより、アンケート
	次年度転園に向けた幼幼連携	楊梅幼稚園への転園を見据えた園児や教職員、保護者の交流、現3歳児と楊梅幼稚園ひよこ組の子どもたちとの交流を共同研究、実践する。	交流を柱に据えた共同研究、交流の年間計画立案、実施と振り返り、教職員も含めた相互訪問等の実績、アンケート
	伝統の息づくまちの子ども	祇園祭をはじめとした祭、節句、餅つき等伝統的な催しに関わったり、竹馬、こま回し、風揚げなど昔ながらの遊びに親しんだり、和紙、織物などで作るなどしたりして活動を通して伝統的なものに触れる。	週案の記載、伝統的なもの・こと・人と関わりの生まれる遊びや園行事の計画と実践事例、懇談会、保護者の声、月だより、アンケート



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年10月21日
	評価者・組織	企画委員会
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
一人一人の子どもに指導が行き届き、幼児の発達に沿った保育内容で、子ども達も安心して園生活を過ごし、「本物の体験」を通して心も体もたくましく成長している等アンケート結果も概ね良好である。	各学年に応じた成果と課題が見られるが、概ね良好であることに甘えることなく、子どもたちの日々の育ちに寄り添っていくための教職員の力量をつけていく。	各学年に応じた成果と課題が見られる。引き続き、エピソード研修や研究保育で深め、教員の力量をつけていきたい。特に少人数の4歳児は、他学年や楊梅との交流を通して心を動かす体験を積み重ねていきたい。
洛央小学校との幼小連携は、年長児の保護者からも喜ばれている。子どもたちにとっても就学への期待が高まり、安心につながっている。しかし、実際入学すると、小学校への抵抗が大きく、馴染むのに時間がかかるという話を聞く。	ある程度の成果は見られるが、連携をしていたのにもかかわらず、抵抗があるというのが気になる点である。交流の年間計画の甘さや教職員相互の話し合いなど少ないのが課題かもしれない。小学校に向けて幼児の心身の育ちについて伝え、相互に理解を深める機会をもつことが必要ではないか。	幼児教育では、主体的に環境にかかわり、遊びを中心とした保育を大切にしていること、遊びや生活を充実させることが学びに向かう力の育成となっていくことなどを教委作成パンフレット等も普及し具体的に伝えていく必要がある。楊梅幼稚園へも引き継ぎたい。
流行性耳下腺炎による出席停止(5月)。大きなけが、病気による欠席は無い。早寝早起き朝ごはんを保護者にも協力要請元気に過ごせているが、基本的な生活習慣の確立していない子どもも見られる。定期健康診断の結果を受けての、事後指導、受診率良好。保健指導の計画的実施。	手洗いうがい習慣化しているが、流行性耳下腺炎による欠席が増えた。月だよりのお知らせ、毎月の保健指導により、保護者、子どもの健康志向の意識が高まった。子ども自ら健康管理や成長を意識する言葉を話すことが増えた。	今後も手洗い場での声かけを積極的に行うなど衛生面に充分配慮する。発育測定(からだのようす)や月だよりなどで家庭との連携を大切にながら体調管理を行ってきたい。成長過程に合った保健指導をし、子ども自ら基本的な生活習慣を確立できるようにする。
担任を中心とした信頼関係を基盤として園内の教職員への安心感も生まれている。心の安定からさまざまな環境に興味を示し、かかわろうとする意欲も育ってきている。運動会などの体を動かす遊びからさまざまな葛藤を経験したが、その中で教師や友達と話し合い、折り合いをつけられるようになったり、自分の力に気づき、肯定感を持てるようになった子どもも多く、保護者からもその姿を喜ぶ声を聞いている。	自分の思いを全身を使って生き生きと表現することはできるが、思いが強すぎて思うようにならないと気持ちの折り合いがつけられなくなることがある。家庭でも大切に育てられ、幼稚園においても少人数の中で育っているの、友達や教師の話を聞く、譲る、思いやりの気持ちを持つなど心の面の育ちにやや課題が見られる子どももいる。	安心安定している姿に喜びを感じながらも、集団生活においてみんなが気持ちよく生活や遊びを進めるためにはどうしたらよいかを考え、気づける子どもに育つように園内の教職員で共通理解していきたい。また、一人一人の子どもの成長を普段から伝え合える教職員のつながりも大切にしたい。
1学期については入園、進級、学級づくりに主眼を置いて保育を進めたが、夏休み明けより閉園について発達段階に応じて、折に触れて伝えたり、保育内容に含めたりするようにした。運動会のテーマも「だいすき開智幼稚園運動会」として取り組み、アンケート結果からも好評を得ている。	それぞれの学年が2学期に入り、運動会を経験することで随分安定し、たくましさも感じられるようになって来ている。これを土台として幼稚園の楽しさ、感謝の気持ち、楊梅幼稚園への期待などがふくらむ取組へとつなげていきたい。	楊梅幼稚園の移転先である元有隣小学校跡地は工事のため子どもたちも大人も園のイメージがもたないが、プランターに花の苗を植えたり、球根を植えたりしてそれを楊梅・開智園間で持ち寄ろうとの計画を進めつつある。開智幼稚園に対してありがたの気持ちを醸成され、高まっていくよう机、椅子など身近なものも心をつなぐ保育を進めるようにする。
京都市立幼稚園教育研究会において、楊梅幼稚園とは統一研究テーマを設定し、両園でそれぞれ子どもたちの交流を主軸とした合同保育を実施した。その他日常的な教職員間の交流や合同の園外保育等を実施した。開智幼稚園3歳児年少組と楊梅幼稚園3歳未満就園児クラスとの交流の場もあった。	交流することで子どもたちがより身近にお互いを意識するようになったり、良い刺激を受け与えることができた。特に3、4歳児は来年度の転園先である楊梅幼稚園に親しみをもちつつある。また、教職員間でも研究保育や合同行事の打ち合わせ等できれば顔を合わせるなどして交流、連携を強めていきたい。今後、保護者間でも親交を深めるようにしたい。	子どもたちは随分顔の見える交流が進んできている。直接会うことがなくても親交を深めたり、移転後の楊梅幼稚園に希望を膨らませたりするような保育を進めるようにしたい。PTAを中心にした保護者同士の交流の場も園と一緒に進めていけるように検討したい。
五月人形を飾ったり、七夕の笹飾りを親子で作ったり、和菓子屋さんから寄贈の行事に因んだ和菓子をしていただいたりして伝統的な行事に親しみ楽しんだ。竹馬、けん玉、絞り染めなど昔ながらの遊びや手仕事を体験し、園生活に深く根付かせる取り組みを進めた。手機を導入し、触れたいときに触れるように生活の流れを見極めているところである。	季節に因んだ伝統的な行事は保育計画に位置付け発達段階に応じてそれぞれ取り組み子どもたちの身近なものとなっていた。昨年中止になった祇園祭山鉾見学や開智子供みこしなども本年は実施でき、子どもだけでなく保護者にも身近に伝統文化に触れる経験ができることを実感してもらうことができた。	引き続き竹馬やけん玉や風揚げ、羽根つきなど子どもたちの遊びや、もちつきなどの昔ながらの行事を通して伝統的文化的活動に親しめるようにしていきたい。手織り機もより身近に親しめるような環境にしていきたい。



学校関係者評価	
評価日	平成28年10月26日
評価者 (いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
開智幼稚園も閉園まで残すところ5か月余りとなった。最後まで保育の充実を図っていただき、閉園という現実を踏まえていい形で終わっていただきたい。	開智自治連合会として協力できることがあれば、要請してほしい。また、教育委員会とも相談して、保護者の不安を軽減できるようにしてもらいたい。
小学校で年長児と交流の機会をもったが、普段馴染みのない小学校の教師の話をしっかり聞いて、指示に応じる姿が見られた。新しい環境になっても困りが無いように指導してもらっていると感じ	幼小の交流は幼児にとっても小学生にとってもプラスである。今後も連携して取り組みを進めたい。12月にはキャリア教育研究全国大会の公開授業にも参加してもらおう。
運動会で子どもたちの元気な姿を見た。よく頑張っていた。やはり家庭の協力が大切だろう。	これからも積極的に学校歴史博物館のグラウンドを使うなどして元気に遊び、病気に負けない体力をつけてほしい。
どの学年も運動会を経験してから年度当初に比べて随分たくましさが見られるようになったとうかがった。運動会ではいきいきとした子どもの姿が見られ、一体感が感じられた。保護者や教職員も一緒になって作り上げているように感じた。元気をもらった。	残りわずかになって来たが、最後まで保育の充実を考えていただきたい。地元としても協力できることがあれば、協力する。
楊梅幼稚園との交流を盛んに進めてもらっている。開智幼稚園の閉園はさみしさもあるが、それだけではない。来年度の転園、新しい場所への移転が楽しみになるように進めてほしい。	開智幼稚園が閉園することを地元だけでなく、広く通園区域の住民にも知らせることが必要であろう。催し物等も開き足を運んでもらえるようにしたい。
楊梅幼稚園と交流をして子どもたちは楽しく遊べているようだ。新しい環境でも友達と仲良くできる状態をつくっていただい	残りの期間でさらに子どもたちの交流を深めて、新年度がスムーズにスタートできるように保護者同士も交流するようにしたい。
運動会で年長児が竹馬を乗りこなしていた。単に乗れることがねらいではなく、心の成長もあるように思う。今年の子供みこしや山鉾見学など様々取り組み良い経験ができてよかった。	地域の高齢者は、昔の玩具で遊んだり、お茶会体験、餅つき大会などのゲストティーチャーとして協力したりできる。

平成28年度 学校評価実施報告書

幼稚園名(京都市立開智幼稚園)

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
	評価項目	(1回目評価を踏まえた)年度末までの取組	(取組結果を検証する)アンケート項目・各種指標
確かな学力・豊かな心・健やかな体	保育の改善・充実	気温が低くなるが、外遊びを進め、園庭、庭博グラウンドも活用し、マラソンで一日を始めるなど体を十分動かし遊び、心の安定と運動機能の発達を促す。絵本ノートの活用と保護者啓発を進め100冊達成率を高め、言語の獲得、感性、知的好奇心を高める。	安全点検表、絵本ノート、環境整備実績、朝のジョギングとジョギング大会の実施、学級ごとの遊びや園行事の計画と実施、週案への記載、懇談会、保護者の声、月だより、ア
	幼小接続の視点	引き続き、洛央小学校と年間交流計画をもとに、互恵的に複数学年と交流を進める。キャリア教育について幼稚園での素地について探る。おたより等で情報交換する。	年間計画を基にした、交流活動の実施と振り返り、教職員も含めた相互訪問等の実績、アンケート
	心と体・生活習慣	早寝・早起き・朝ごはん、手洗いうがいの習慣化、気候に合った服装、インフルエンザ等感染症予防等を家庭と連携して取り組む。丁寧な健康観察、月例保健指導を行う。	出席簿、保健簿、月だより、保健指導資料作成、環境整備実績、週案の記載、懇談会、保護者との会話、アンケート
	信頼関係・折り合い・自己肯定感	引き続き、発達段階に応じた、集団を意識した保育、縦割りのメンバー構成による保育等、少人数園ならではの年齢を越えた人とのかわりを促す。とりわけ、年中児と年少児の関わりを意識し、教職員全員が保育に参画するようにする。	週案の記載、関わりの生まれる学級ごとの遊びや異学年間の関わりが生まれることを意識した園行事の計画と実践事例、懇談会、保護者の声、月だより、アンケート
園独自の項目	感謝と未来へつながる保育	年度末の閉園を見据えた、子どもの育ちや感謝の心、転入する楊梅幼稚園の移転先への希望が膨らむ保育の計画と実践を楊梅幼稚園と連携して進める。保護者にも理解と協力をいただく。	週案の記載、閉園を見据えた学級ごとの遊びや園全体の行事の計画と実践事例、懇談会、保護者の声、月だより、アンケート
	次年度転園に向けた幼幼連携	引き続き、楊梅幼稚園への転園を見据えた園児や教職員、保護者の交流、現3歳児と楊梅幼稚園ひよこ組の子どもたちとの交流を共同研究、実践する。	交流を柱に据えた共同研究、交流の実施と振り返り、保護者や教職員の相互訪問等の実績、アンケート
	伝統の息づくまちの子ども	節句、餅つき、お茶会等伝統的な催しに関わったり、竹馬、こま回し、風揚げなど昔ながらの遊びに親しんだりする。和紙など伝統的な素材に触れて作ったり、機織り体験をするなど活動を通して伝統的なものに触れる。	週案の記載、伝統的なもの・こと・人と関わりの生まれる遊びや園行事の計画と実践事例、懇談会、保護者の声、月だより、アンケート



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	
	評価者・組織	
アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策



学校関係者評価	
評価日	
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策

3 総括・次年度の課題